

〈研究ノート〉

映画予告編の日米仏比較 — 文化変形規則 (CTR) の枠組みを用いて —

岩畑 貴弘

1. はじめに

違う文化圏を訪れた時には、我々は様々な場面において、カルチャーショックを経験したり違和感を感じたりすることが往々にしてある。その違いを言葉で表現しようと思っても容易なことではない。文化の違いが根底にあるため、その違いというものは表層的なさまざまなレベルで、およそ社会のすべてのことで現れると言っても良いかもしれない。本研究では、同じ映画の予告編を通じて、日本、アメリカ、フランスの文化・言語文化の違いを考察してみたいと思う。映画自体は同じで、セリフが違う言語に訳されるわけであるから、映画自体はほとんど同じ内容と言っていいのだが、予告編はその映画を切り取って、観客に対してもっとも魅力的であろうとする。そこに予告編の作り手が属する文化の主観が混じりこみ、意外なほど互いに異なるものに仕上がることがある。実際に使われる言葉と、映し出されるセリフ等、特に言葉に焦点を当ててみたい。

2. 映画『アナと雪の女王』

本研究で使用する映画は2013年に初公開され、2014年にかけて世界中で大ヒットした(本稿執筆中の2014年9月ではまだ十分にヒットが継続中と言える状況である)映画『アナと雪の女王』(原題 *Frozen*) である。

映画 *Frozen* はアメリカのディズニー・スタジオ (Disney Studio) が作成した映画で、本国アメリカでの公開日は11月27日。その後、順次世界中で公開されている。日本は比較的遅く、2014年3月14日の公開であった。映画の製作費は1億5000万ドル、つまり日本円で150億円強となり、最近の高額化するハリウッド映画やCGを駆使したアニメーション映画の200億円程度よりは多少低額であったようである。本映画は世界中で見られる他の映画と同様に非常に多くの国で公開され、かつ吹き替え版が作られたわけであるが、本作品のひとつの特徴として、その吹き替え版が一定の注目を浴びたことであろう。主題歌とも言える、*Let it Go* の各言語版のうち英語を含む25か国語を選び、それをつなぎ合わせて *Let it Go Multi-Language Version* としてYouTubeのディズニー・スタジオの公式チャンネルで公開した。これは本来の Idina Menzel が歌う英語版とあわせてのホームページ公開だったが、8月25日現在、英語版の再生回数は3億1000万回ほどであるのに対し、3400万回も再生されているなど相当な注目を浴びている。映画関連のニュースをキュレートおよびデータを収集・公開するサイトである Box Office Mojo⁽¹⁾によると、2014年8月22日現在で、興行収入は全世界で12億7900万ドル。これはこれまでの映画における歴代世界5位の興行収入である。そのうち3割強のおよそ4億ドルが北米市場での収入である。意外に思われるかもしれないが、北米市場を除く海外市場の第1位は日本で、2億4900

万ドルと、全興行収入に対して 20% 弱の貢献となっている。海外第 2 位の韓国は 7600 万ドルなので、海外市場第 1 位の日本は突出している。

なお、本稿作成途中の 2014 年 9 月 10 日時点において、動画サイト YouTube には、日本語による「ディズニー・スタジオ公式チャンネル」と、英語による“Walt Disney Animation Studios”（公式サイト）、そしてフランス語による“Disney FR”（公式サイト）がそれぞれ存在する。そしてそれぞれのサイトではディズニーの映画などが紹介されているわけであるが、それぞれに『アナと雪の女王』/*Frozen/La Reine de Neiges* 関連の動画を集めたプレイリスト（Playlist）がある。そして日本語サイトには 14 編の動画が、英語サイトには 16 編の動画が、そしてフランス語サイトには 17 編の動画がある。そしてそのうち予告編は日本語サイトでは 2 編、英語サイトでは 3 編、フランス語サイトには 3 編存在する。それぞれのタイトルを挙げると以下の通りである。

(1) ディズニー・スタジオ公式チャンネル（日本のサイト）

1. 「アナと雪の女王」MovieNEX 予告編
2. 「アナと雪の女王」予告編

Walt Disney Animation Studios (American site)

1. Disney's Frozen Holiday Trailer
2. Disney's Frozen Official Trailer
3. Disney's Frozen “First Time in Forever” Trailer

Disney FR (Le Site Français)

1. La Reine des Neiges-Bande annonce
2. La Reine des Neiges-Bande annonce Teaser
3. La Reine des Neiges-Teaser du Disney de Noël 2013

なお、日本語版の 1 と 2 であるが、基本的に全く同じ内容で、最後に 1 秒間だけ、MovieNex という文字が最後に登場するだけであるので、実質的に予告編はひとつだけであると考えてよい。

3. 文化変形規則（CTR）とは

日本の文化、アメリカの文化、フランスの文化といった表現を普段非常に頻繁に私たちは用いる。それは必ずしも深く考えずに用いられることも多い。そのように使用が頻繁な表現であるが、それではそれぞれの文化、とは何なのか、またそれらの違いは何なのかと問われれば、曖昧な表現では何か言えるかもしれない。例えばアメリカでは自己主張をするのが文化である、日本では自己主張をせず周りの人を気遣うのが文化である、というような表現になってしまう。これをもっと明示的な形で定式化しようと試みたのが松本 1994 である。1994 年の著作でその「文化変形規則（Cultural Transformation Rules）」を提唱し、その著作をアップデートしたものが 2014 年に発表されている。

著書に列挙してあるものが全て、というつもりは著者には毛頭ないだろうが、一応 8 対の文化変形規則が列挙されている。それぞれの規則の左側の項目が日本のものであり、右側の項目がアメリカのものを指している。

- (2) 規則 1 『謙遜志向』 対 『対等志向』
規則 2 『集団志向』 対 『個人志向』
規則 3 『依存志向』 対 『自立志向』

- 規則 4 『形式志向』 対 『自由志向』
 規則 5 『調和志向』 対 『主張志向』
 規則 6 『自然志向』 対 『人為志向』
 規則 7 『悲観志向』 対 『楽観志向』
 規則 8 『緊張志向』 対 『弛緩志向』

それぞれの文化変形規則につき、対立する複数のよりわかりやすいキーワードを提示し、それぞれについてエピソードや例を交えながらわかりやすくかつ丁寧に説明してある。例えば規則 2 の『集団志向』対『個人志向』の対立するキーワードは、〈皆と一緒に〉と〈ひとり〉、〈町内会〉と〈ボランティア〉、〈他律〉と〈自律〉、〈隠し事〉と〈プライバシー〉、〈恥〉と〈罪〉、〈同質〉と〈異質〉という具合である。わかりやすくはあるが、文化変形規則について、明確な定義があるわけではない。ただ、文化というものは幅の広いものであるし、定式化できるものでもないかもしれないので、その程度で良いのかもしれない。以下、これらの文化変形規則を用いるにあたっては、このような規則の在り方を前提として見ていく^{(2),(3)}。

4. 比較

最初に、**Frozen** の日本版・アメリカ版・フランス版の予告編の違いを概観してみよう。3本は全体の雰囲気が全く異なる。

- (3) 日本……ストーリーを際立たせてほのめかし、それが感動的作品であることを強くほのめかす
 アメリカ……ジョークを中心に軽いポップな感じで紹介される
 フランス……日本のものと比較的似ている。感動作品であることを幾分ほのめかしている

リンクから見ただけであれば雰囲気の違いは一目瞭然である。日本とアメリカが対極にあり、フランスが両者を取り混ぜたと言ってもいいかもしれない。日本ではこの映画に対して主に姉妹愛というところの感動作品であるという売りがなされているのに対して、アメリカでは少なくとも予告編においてはジョーク性かなり強くでているからである。日本での本作品の紹介のされ方を多少なりとも見たことのある日本在住者であれば、アメリカの映画予告編があまりに違うのに驚くだろう。ほぼ全編が、映画中のちょっとした笑えるシーンをつなぎ合わせてつくられているからである。一方日本語版ではそのようなシーンが多少は入っているものの、非常に少ない。(もっとも、本作 **Frozen** の主要なテーマは何かと監督が問われた際に、「真実の愛」と答えたという話から、本来の映画のテーマはやはり「愛」であり、その意味では日本の予告編でアピールされたものとあまり変わらないことになる⁽⁴⁾。)

なお、本作品のタイトル自体も非常に興味深い。オリジナルの英語版のタイトルは上記に述べているように **Frozen** である。これはもちろんエルサの魔法により大量の雪が降り、あたり一面が凍ってしまったことを描写、つまり「凍っている」という状態を指しているものである。一方の日本語版ではそのニュアンスを表したのでは全くなく、『アナと雪の女王』となっている。英語にするならば“**Anna and the Snow Queen**”となる。これにはやや特殊な事情があるようである。日本では映画、特に子供向けのアニメには「AとB」というタイトルをつけることが2014年現在広く一般に見られる。これはおそらく、小説ハリーポッターシリーズがこの形態でタイトルをつけられていることに端を発し、その後日本では2001年公開のスタジオ・ジブリ映画『千と千尋の神隠し』が大ヒットして以来のひとつの流れである。もっともジブリ作品でタイトルがこの形式になっているのはこれのみで、むしろディズニー

のものにこれが多い。2007年公開『ルイスと未来泥棒 (Meet the Robinsns)』, 2009年公開『プリンセスと魔法のキス (The Princess and the Frog)』, 2012年公開『メリダとおそろしの森 (Brave)』などがある。

(4) *Frozen*

アナと雪の女王

La Reine des Neiges

ちなみに、フランス版では *La Reine des Neiges* つまり『雪の女王』というタイトルになっている。それでは各予告編の特徴的な箇所を、関連すると思われる文化変形規則のルールごとに見てみよう。

4.1 規則8 『緊張志向』対『弛緩志向』

下位キーワード：〈まじめ〉と〈ジョーク〉, 〈頑張る〉と〈Take it easy〉, 〈努力〉と〈能力〉, 〈なまけ〉と〈ゆとり〉, 〈根性主義〉と〈合理主義〉

最後の規則である『緊張志向』対『弛緩志向』を冒頭に取り上げるのは、やはりこれが日米の予告編を見ていてもっとも異なると感じるからである。日本の予告編を通じて言えるのは、〈まじめ〉で重い雰囲気を漂わせているということである。日本版予告編を通してみてもらえればわかるが、そのテーマは姉妹愛であり、重厚なテーマであることを漂わせている。画面にその内容が出されるナレーションが頻繁に入るのだがその内容は：

「姉には秘密が」や、「妹には使命が」などとなっている。

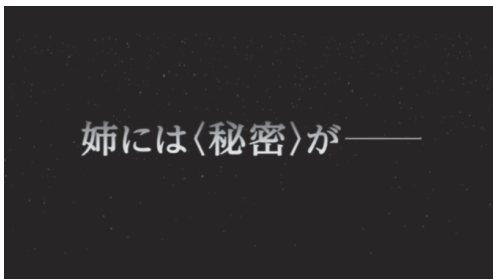


図1 日本版予告編より



図2 日本版予告編より

既に映画を鑑賞した人ならば分かる通り、妹のアナの性格は天真爛漫で、使命という言葉とは容易に結びつきがたい。見方によっては、やや誇張しすぎの感もあるが、予告編の大きな目的のひとつとして注目を浴びることがあるので、幾分の誇張は許されるのかもしれない。

一方のアメリカ版は、日本人の目には意外に映るほど、ジョークを全面に出した構成となっている。これもアメリカ版を実際に見てもらえばわかるが、全編ほとんどがジョークの羅列となっている。

しゃべる雪だるま、オラフを紹介する目的だと思うが、このような「雪だるま？」というキャプションをつけて、オラフの特に笑いを誘うシーンを並べてある。

また、基本的には笑いを誘うためのキャラクターでしかない「オーケン」も予告編に登場し、全体の愉快的な雰囲気にも貢献している。ちなみに、ストーリーとは直接関係がないためか、日本版予告編にはこのオーケンは全く登場しない。



図3 アメリカ版予告編より・オラフの紹介の冒頭シーン



図4 アメリカ版予告編より・笑いを誘うオーケンのシーン

4.2 規則2 『集団志向』対『個人志向』

下位キーワード：〈皆と一緒〉と〈ひとり〉、〈町内会〉と〈ボランティア〉、〈他律〉と〈自律〉、〈隠し事〉と〈プライバシー〉、〈恥〉と〈罪〉、〈同質〉と〈異質〉

日本における『集団』への志向と、アメリカおよび西洋社会一般における『個人』への志向、という違いは時に飽きるほどに言及されてきたし、また研究対象ともなってきた。ゆえに、松本の研究において、これがひとつの規則となっても何ら不思議でない。

この『集団志向』と『個人志向』については細部については議論もありうることもかもしれないが、大枠としてそういった差があることは言えるであろう。そして、それは日本の社会および西洋の社会のあらゆるところで表面化するため、映画においてもまったく例外でない。

例えば日本の予告編『アナと雪の女王』では登場人物の「関係性」が前面に押し出されている。前節では「緊張」対「弛緩」ということでいくつか予告編の画像も出したが、すでにそこで「妹」と「姉」の対比がクローズアップされている。よくも悪くも、映画を「妹」と「姉」の関係性という視点から描いている。

一方のアメリカ版では、ひとりひとりの紹介という構成になっており、見事なまでの『個人志向』と言えよう。



図5 アメリカ版予告編より・クリストフの紹介の冒頭

例えば、クリストフについては、上記の“The Ice Guy?”という1カットのあと、映画から数シーンを取り上げることによって、クリストフという登場人物の紹介の形になっている。そしてクリストフの紹介中、基本的に笑いを誘うシーンばかりを集めてあることにより、全体としてのジョーク感を大きく増してある。つまり、『個人志向』の枠組みの中で、上述の『弛緩志向』が表出されていると言えようか。

以下、ほぼ同様の進め方で、登場人物ひとりひとりの紹介、ハンズ、オラフそしてアナ、の順となっている。言い方を変えれば、完全にキャラクター中心に映画を紹介している。



図6 アメリカ版予告編より・ハンス王子の紹介の冒頭



図7 アメリカ版予告編より・オラフの紹介の冒頭



図8 アメリカ版予告編より・アナの紹介の冒頭

非常に興味深いのは、この登場人物の紹介全体がジョーク風に仕立ててあることである。つまり、紹介に先立ってナレーターの声をかぶせた以下のカットが予告編の冒頭に出てくる。



図9 アメリカ版予告編より

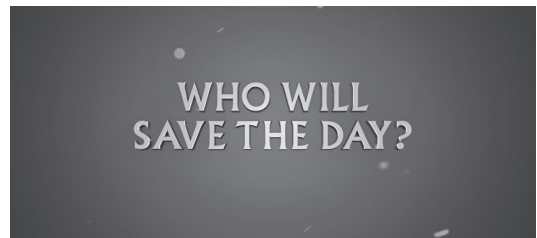


図10 アメリカ版予告編より

「この感謝祭の日」を「誰が救うのか?」という映画のストーリーとは全く無関係な問いに対する答えとして、4名の登場人物の紹介がなされているわけである。ちなみに、なぜ感謝祭の日が関係あるかと言えば、アメリカでの一般映画館の公開日が2013年11月27日、すなわちThanksgiving Weekendの最初の日に公開された映画だからである⁽⁵⁾。日本の感覚から言えば、コメディ映画でもなくむしろ感動作品の予告編においてはストーリーに没頭させるようなものが良いように思えるが、アメリカでは現実と混在させることによってさらに笑いを作り出すほうがより観客の印象に残る良い予告編であると考えられた結果かもしれない。

4.3 規則7 『悲観志向』対『楽観志向』

下位キーワード：〈けなす〉と〈ほめる〉、〈否定〉と〈肯定〉、〈無事〉と〈楽しみ〉

上述の規則8と関連しているが、日本の予告編が重い印象・沈んだ印象・まじめな印象を強く与える

のに対して、アメリカ版予告編では、楽しい印象・軽い印象・明るい印象を与える。その意味では、日本では悲観的な雰囲気があり、アメリカでは楽観的な雰囲気があるのであろう。アメリカ版ではまるでジェットコースターのようにスリリングな物語を予想させるが、日本版では強いストーリー性および感動を予感させる予告版になっている。



図 11 日本版予告編より

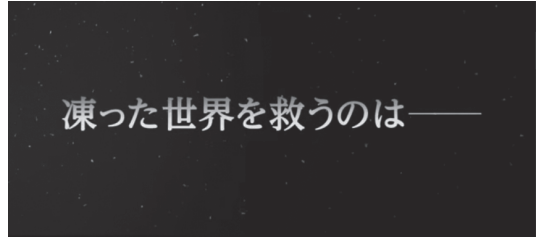


図 12 日本版予告編より



図 13 日本版予告編より

アメリカ版



図 14 アメリカ版予告編より



図 15 アメリカ版予告編より



図 16 アメリカ版予告編より

実際の予告編を見てももらえれば一目瞭然の差異ではあるが、カットを一部抜き出しただけでもその雰囲気の差はわかるだろう。

5. フランス版との対比

前節では日本版とアメリカ版の予告編を対比させた。そこにまた別基軸としてフランス版はどうなるか。まず言えるのは、基本的にアメリカのオリジナルの予告編にフランス語を載せてフランス版を作成しているということである。したがって、いわゆる **Official Trailer** つまり公式の予告版というべきものは、アメリカでもフランスでも全く同じ内容となっている。もちろんアメリカとフランスでは文化が異なるため本来の意味では多少アレンジしたほうがより魅力的な予告編になるのであろうが、その差が日本と比べて小さいためか、フランスオリジナルの予告編を編集するほどのインセンティブにはならないことかと推察される。よって、多少の違和感はあるとしても、完成度も高いオリジナルの予告編に同じ内容でそのままフランス語を載せて、かつテロップをフランス語にして作成している。これだと格段に製作費が安いことは容易に想像される。

上記 (2) で日本、アメリカ、フランスそれぞれの公式チャンネルでの予告編をリストした。そのうちアメリカとフランスのものを下に再掲する。

(5) Walt Disney Animation Studios (American site)

1. Disney's Frozen Holiday Trailer
2. Disney's Frozen Official Trailer
3. Disney's Frozen "First Time in Forever" Trailer

Disney FR (Le Site Français)

1. La Reine des Neiges-Bande annonce
2. La Reine des Neiges-Bande annonce Teaser
3. La Reine des Neiges-Teaser du Disney de Noël 2013

アメリカサイト・フランスサイトともに3編ずつ存在するが、実はそれぞれ同じものである。同じものを上下に並べ、イコールで繋ぐと以下ようになる。

(6) American Site

1. Disney's Frozen Holiday Trailer
= 3. La Reine des Neiges - Teaser du Disney de Noël 2013
2. **Disney's Frozen Official Trailer**
= 2. La Reine des Neiges-Bande annonce Teaser
3. Disney's Frozen "First Time in Forever" Trailer
= 1. **La Reine des Neiges-Bande annonce**

しかしながら、少なくとも現時点においてどのバージョンが正式な予告版として使われているかは異なる。英語では **Official Trailer** と名前がついている2番であり、フランス語では **Band Annonce** となっていて、**Teaser** という表現がついていないものである⁽⁶⁾。

アメリカ版とフランス版のこれらふたつの公式予告編を比較すると随分と雰囲気が異なることがわかる。アメリカ版については上述したように、基本的にポップな感じでジョークを多く含むものである。

フランス版については一転、暗い音楽が流れ、まるでミステリー映画の予告編であるかのように見られる。これは現代文化との関連を考えたときに大変に興味深い。フランス版予告編の冒頭部分から重い

雰囲気の内レーションが流れる。



図 17 フランス版予告編より



図 18 フランス版予告編より

これは言ってみれば規則 7 の悲観対楽観のうち、フランスでは悲観よりであることが反映されているかもしれない。



図 19 フランス版予告編より



図 20 フランス版予告編より



図 21 フランス版予告編より

6. おわりに

本研究ノートでは世界的大ヒット映画『アナと雪の女王』の予告編に着目し、国によって意外なほど異なるその内容について、日本とアメリカとフランスの例を出しながら見た。その分析の枠組みとして、松本（1994）の「文化変形規則」を援用した。我々がなんとなく感じている、日本のイメージ、アメリカのイメージ、そしてフランスのイメージというものを理論が一定程度説明しているように思われる。

注

(1) Box Office Mojo のアドレスは以下の通り。 <http://www.boxofficemojo.com/>

(2) この「文化変形規則」と同様に、異文化間の異なる文化の在り方を規則あるいはパラメーターで表そうとした先行研究が存在する。例えば、Kluckhohn & Strodtbeck (1961) は以下のようなパラメーターが存在するとした。(日本語のまとめは土屋 (1995) による。)

1. 人間の本性をどうみるか。〈人間性〉
2. 人と自然との関係をどうみるか。〈自然観〉
3. 過去・現在・未来の時のどこに焦点を置くか。〈時感覚〉
4. 人間の活動様式はどのようか。〈活動様式〉
5. 他者との関係の様式はどのようか。〈人間関係〉

これは松本の提案した CTR とかなり重なるところがある。松本の研究では直接この Kluckhohn & Strodtbeck (1961) に言及したり、検討したりはしていないようである。本研究でももちろん松本の CTR と Kluckhohn & Strodtbeck (1961) 理論の違いなどについて気になるところではあるが、本研究ノートの域を大きく超えるため、また別の機会に譲りたい。

(3) 本研究ノートで扱った予告編でなく、映画の本編について日本のジブリアニメがどのように訳されて海外へ浸透していったのか比較した研究を Denison (2007) が行っている。(芳賀 (2001) に簡潔な紹介がある。)

(4) 映画の監督であるクリス・ベックとジェニファー・リーがプロモーションのために来日した際にそう語ったとされる。公開インタビューの様子は複数の場所で記事となっているが、例えば「OKstars インタビュー」に同趣旨のことが書かれている。 <http://okstars.okwave.jp/vol35102.html>

(5) アメリカにおける感謝祭は 11 月の第 4 木曜日からその直後の日曜日までの 4 日間となる。したがって年によって日にちはことなるが、*Frozen* が公開された 2013 年については 11 月 27 日から 11 月 30 日までが Thanksgiving Weekend ということになる。一般的にはこの Thanksgiving Weekend はアメリカ人にとって大きなイベントであり、年末年始よりも家族が集うイベントであると考えられている。日本でいえば、お盆と正月を合わせたような雰囲気と言えるかもしれない。

(6) 英語では *teaser trailer* などと呼ばれるものである。*trailer* を略して単に *teaser* と呼ばれることもある。映画の予告編における *teaser (trailer)* とは、正式かつ 2-3 分の長さを持つ予告編に対して、番外編あるいは特別編とでも言うべきやや短いものを指す。フランスではそのまま *teaser* として、特別篇の予告編も併せて公開しているということになる。興味深いのは、アメリカ版における予告編がフランス版では特別篇となり、アメリカ版における特別篇がフランス版では正式版となっていることである。

ちなみに、映画の予告編において *teaser* とは上記の通りであるが、予告編を通常作成しない製品や工業品等の場合には、*teaser* とはその製品発売の予告をする短い動画クリップを指し、HP 等で公開される。

References

- Denison, R. (2007) Global Markets for Japanese Film: Transforming Miyazaki Hayao's *Sen to Chihiro no Kamikakushi* into *Spirited Away*. In *Japanese Cinema: Texts & Contexts* (pp. 308-322). London: Routledge.
- Kluckhohn, F. R., & Strodtbeck, F. L. (1961) *Variations in Value Orientations*. Oxford, England: Row, Peterson.
- 松本青也 (1994) 『日米文化の特質 — 価値観の変容をめぐって —』 東京: 研究社出版.
- 土屋澄男 (1995) 「英語教育における異文化の扱いについて (2) — クラックホーン・モデルによる文化の普遍的特性 —」 『文教大学・言語と文化』 9: 51-68.
- 芳賀理彦 (2001) 「アメリカにおける宮崎駿の受容 — 日本文化と歴史の新しい表象 —」 『千葉大学比較文化研究』 2: 73-102.

付録

日本版の映画予告編・スクリプト

(アレンデル遠景)
 (戴冠式のシーン, エルサが入ってくる。続いてアナ。)
 (ウェーゼルトン侯爵がダンスに誘う。かつらがとれる。笑)
 (細かな雪が散る黒い背景に青と白の文字が浮かぶ。以下同様)
 — 2人の姉妹 —
 エルサ「きれいよ」
 アナ「ありがとう！」
 — 姉には〈秘密〉が —
 (戴冠式を不安に思うエルサ)
 エルサ「この力をコントロールしなくては……」
 (急いで中庭に出るとたくさんの群集が。噴水が氷つくのを見て恐れる群集。エルサの力で氷が出現)
 ウェーゼルトン侯爵「魔法だ」
 アナ「エルサ！」
 ハンス王子「全て凍ってしまった。」
 — 妹には〈使命〉が —
 アナ「女王と王国を救いたいのだ。」
 クリストフ「怖くないのか。」
 (馬に乗るアナ)
 アナ「大丈夫よ。姉さんだもの。」
 (雪の山中を歩くアナとクリストフの前にオラフが現れる)
 オラフ「もちろん大丈夫さ。エルサは最高だもん。」
 (驚いてオラフの頭を蹴るアナ)
 オラフ「やあ。」
 クリストフ「変な奴。」
 (オラフの頭を投げあう)
 アナ「いらないわよ。」
 オラフ「落ち着こうよ。」
 — ディズニー映画最新作 —

オラフ「やあ、僕はオラフ。ハグが大好き。」
 (エルサが融けたオラフを直す)
 アナ「エルサが作ったの？」
 オラフ「そうだけど。」
 クリストフ「女王は今どこに？」
 オラフ「ついてきて。あ〜。」
 アナ「オラフ！」
 オラフ「完璧！」
 アナ「痛かった？」
 オラフ「最高！」
 アナ「もう魔法で夏にすればいいのよ。」
 アナ「凍っちゃう、凍っちゃう。」
 — アンデルセンの名作から生まれた —
 クリストフ「突然吹雪になるなんて。」
 アナ「吹雪じゃないわ、姉さんの魔法よ。」
 — 全く新しいファンタジー —
 — 塔の上のラブツェルと —
 クリストフ「急ぐんだ。」
 — 美女と野獣のスタッフが贈る —
 ウェーゼルトン侯爵「このままではみんな凍え死ぬぞ。」
 ハンス「お願いだ、冬を止めてくれ。」
 アナ「私には、できないの。」
 — 2014年、春 —
 オラフ「夏を、取り戻すんだ」
 — 凍った世界を救うのは —
 アナ「一緒に戻しましょう。」
 — 真実の愛 —
 アナ「オラフ、融けているわ。」
 オラフ「アナのためなら融けてもいいよ。」
 アナ「エルサ！」
 — アナと雪の女王 3月14日 ロードショー —

アメリカ版の映画予告編・スクリプト

— Narrator —
Summer in the city of Arendelle.
It couldn't be warmer, it couldn't be sunnier.
But that's about to change. Forever.
 Kristoff: Arendelle! It's completely frozen!
 — Next scene —
 Anna: Cold, cold, cold...

— Next scene —
 Oaken: A real howler in July, ja?
The land is covered in eternal snow.
 Anna: Really?
 The Duke of Weselton: If we don't do something soon,
 we will all freeze to death.
 — Next scene —
 Kristoff: You want to talk about a problem? I sell ice for

a living.
Anna: That's a rough business to be in right now. I mean, that is really... That's unfortunate.
—Next scene—
Hans: My lady.
Anna: This is awkward. Not you're awkward. But just because we're, I'm awkward. You're gorgeous.
Wait, what?
—Next scene—
Olaf: Hi everyone, I'm Olaf. Hi!
Kristoff: You're creepy.
Anna: No! I don't want it!
Olaf: We got off to a bad start.
—Next scene—
Anna: I know how to stop this winter.
—Next scene—
Kristoff: Hang on!
Anna: I like fast!
Kristoff: Wow, wow, wow, wow! Get your feet down. This is fresh lacquer. Seriously, you were raised in a barn?
—Next scene—
Olaf: Let's go bring back summer!
—Next scene—
Olaf: Man, am I out of shape...
Anna: Wolves! Duck!
—Next scene—
Anna: Are you okay?
Kristoff: I've got a thick skull.

Olaf: I don't have a skull.
—Next scene—
Olaf: Head rush!
—Next scene—
Olaf: It's so cute! It's like being a baby unicorn.
—Next scene—
Kristoff: Now we just have to survive this blizzard!
Anna: That's no blizzard. (Sorcery.) That's my sister.
Kristoff: That would have been nice to know.
—Next scene—
Olaf: Heads up!
Anna: It is not nice to throw snow people.
Kristoff: Wow, wow, wow, feisty-pants, just let the snowman be!
Anna: I'm calm.
Kristoff: Great! Oh, come on!
—Next scene—
Anna: Olaf, you're melting!
Olaf: Some people are worth melting for. Just maybe not right this second!
Kristoff: Come on, buddy, faster! No!
Anna: Olaf!
Olaf: Hang in there guys!
—Next scene—
Olaf: I can't feel my legs! I can't feel my legs!
Kristoff: Those are my legs!
Olaf: Hey, do me a favor. Grab my body!
Kristoff: Oh, that feels better.